

下記の通り、記載内容に一部誤りがありましたので訂正いたします。

訂正・追加箇所	誤	正
p. 10、308、319、344 及び 388 IATA(International Air Transport Association)の日本 名の統一	「国際航空輸送協会」	「国際航空運送協会」
p. 41 1. 口腔の項 上から 10 行目 (記述内容の適正 化)	「口腔には、耳下腺、下顎腺、舌 下腺という～」	「口腔周囲には、耳下腺、下顎 腺、舌下腺という～」
p. 49 (3) 前立腺の項 (記述内容の適正 化)	「膀胱の下にあり、精管はこの前 立腺の中で尿道に開口する。精液 成分の大部分を分泌する。」	「膀胱の下にあり、精管はこの前 立腺の中で尿道に開口する。精液 成分を分泌する。」
p. 49 (4) 精囊の項 (記述内容の適正 化)	「精管が尿道に入る直前の部分か ら飛び出している袋状の器官であ る。精液成分の一部を分泌す る。」	「精管が尿道に入る直前の部分か ら飛び出している袋状の器官であ る。精液成分を分泌する。」
p. 59 (2) 適応と適応度の 項 上から 4 行目 (イン デントなし)	「生活する環境～」	「生活する環境～」
p. 61 (5) 維持行動と生殖 行動の項 上から 12 行目 (用語の適正化)	「～ <u>個</u> 体行動、～」	「～ <u>個別</u> 行動、～」
p. 65 (2) コミュニケーショ ンの信号の項 下らから 3 行目 (脱字訂正)	「～体臭 (オドアプリント) が り、～」	「体臭 (オドアプリント) が <u>あ</u> り、～」
p. 72 2) 目的形質が潜性 (劣性) の場合の項 下から 3 行目 (用語重複修正)	「ホモ型個体 (a/a) <u>個</u> 体を～」	「ホモ型個体 (a/a) を～」

(次頁に続く)

訂正・追加箇所	誤	正	
p. 77 (1)、1) 一塩基置換の項 上から1～2行目 (誤字訂正)	「～一塩基置換 (single nucleotide <u>polymorphism</u> : SNP) ～」	「～一塩基置換 (single base substitution : SBS) ～」	
p. 81 右欄 「トランスジーンの表記例」の項 (スペルミス)	Tg (Zfp38) D1Htz マウスの Zfp38 遺伝子を含むトランスジーンで、 <u>Nathaniel Heints</u> (Htz) が報告した D1 系 (D1)	Tg (Zfp38) D1Htz マウスの Zfp38 遺伝子を含むトランスジーンで、 <u>Nathaniel Heintz</u> (Htz) が報告した D1 系 (D1)	
p. 85 2. 生殖腺の性決定要因の項 上から3行目 (脱字)	「～さらに <i>Sry</i> 遺伝子によって～」	「～さらに <i>Sry</i> 遺伝子によって～」	
p. 85 3. 生殖腺と副生殖器の発生の項 上から12行目と19行目 (2か所) (脱字)	「胎齢 13 目頃から～」	「胎齢 13 <u>日</u> 頃から～」	
p. 96 右欄 「オキシトシン」の項 (用語の統一)	「 <u>バゾプレッシン</u> 」	「 <u>バソプレシン</u> 」	
p. 141 (4) 空気浄化 上から10～11行目 (記載の適正化)	「超高性能フィルター (Ultra Low Particulate Air filter : ULPA filter) は <u>0.1μm</u> 粒子を 99.9995%以上捕集し、～」	「超高性能フィルター (Ultra Low Particulate Air filter : ULPA filter) は <u>0.15μm</u> 粒子を 99.9995%以上捕集し、～」	
p. 141 右欄、表 8-7 各種エアフィルターの機能 (記載の適正化)	表 8-7 各種エアフィルターの機能		
	分類	対象粒径 μ m	捕集効率 %
	粗塵フィルター	5以上	重量法 99.9995
	中性能フィルター	1以上	比色法 30～95
	高性能フィルター	0.1以上	DOP法 99.97以上
	超高性能フィルター	0.1以下	DOP法 99.9995以上
表 8-7 各種エアフィルターの機能		表 8-7 各種エアフィルターの機能	
分類	対象粒径 μ m	捕集効率 %	
粗塵フィルター	5以上	—	
中性能フィルター	5以下	—	
高性能フィルター	0.3	99.97以上	
超高性能フィルター	0.15	99.9995以上	
(JIS規格 Z 8122 : 2000を要約)			
p. 179 図 11-1 図中のゲノム編集ツールの吹き出し (誤字訂正)	「 <u>ZEN</u> 、TALEN、CRISPR-Cas9」	「 <u>ZFN</u> 、TALEN、CRISPR-Cas9」	

(次頁に続く)

訂正・追加箇所	誤	正
p. 185 (5)、1) 培地と器具 の項 (誤字訂正)	「～精子 <u>全</u> 培養～」	「～精子 <u>前</u> 培養～」
p. 208 (7) 縫合糸の項 上から 2～4 行目 (記載の適正化)	「吸収性の縫合糸には動物系（腸線、動物腱、再生コラーゲンなど）と合成繊維系（アルギン酸、グルタミン酸、グリコース酸など）がある。」	「吸収性の縫合糸には動物系（腸線、動物腱、再生コラーゲンなど）と合成繊維系（ポリグルコール酸、ポリジオキサノン、ポリグラクチンなど）がある。」
p. 234 表 1-3 マウスの血液 学的検査値 白血球（WBC）の単 位欄	$\times 10^2/\text{mm}^3$	$\times 10^2/\text{mm}^3$
p. 259 4. 妊娠の項 上から 3 行目 (用語の適正化)	「妊娠 6～7 日目に <u>受精卵</u> は子宮に着床する。」	「妊娠 6～7 日目に <u>受精卵（胚）</u> は子宮に着床する。」
p. 259 右欄 「偽妊娠」の項 上から 3～4 行目 (用語の適正化)	「この時に <u>受精胚</u> を移植すると、～」	「この時に <u>胚</u> を移植すると、～」
p. 259 5. 胎子の発育の項 上から 3～8 行目 (用語及び記述内容 の適正化)	「～、交尾後約 24 時間で卵割が始まる。 <u>卵割は 2 細胞期、4 細胞期、8 細胞期と進み、16 細胞期以上の桑実期に達するのは受精後約 60 時間である。卵はこの時期まで卵管にあるが、胎齡 4 日には子宮に降りて、胞胚期に進む。この時期には、卵は一層の栄養外胚葉細胞に囲まれ、中に内腔（胚胞腔）が生じ、その一部に細胞塊が見られる（この時期以降、卵は胚 [embryo] とよばれる）。</u> 」	「～、交尾後約 24 時間で卵割が始まり、 <u>これ以降は胚 [embryo] とよばれる。卵割は 2 細胞期、4 細胞期、8 細胞期と進み、16 細胞期以上の桑実期に達するのは受精後約 72 時間である。胚はこの時期まで卵管にあるが、胎齡 4 日には子宮に降りて、胞胚期に進む。この時期には、胚は一層の栄養外胚葉細胞に囲まれ、中に内腔（胚胞腔）が生じ、その一部に細胞塊が見られる。</u> 」
p. 269 表 3-1 モルモットの 感染性疾患 「気管支敗血症菌 症」の主な病変・特 徴などの欄 (誤字訂正)	「～、発症動物では水 <u>溶性</u> 鼻汁の 排出、～」	「～、発症動物では水 <u>様性</u> 鼻汁の 排出、～」

(次頁に続く)

訂正・追加箇所	誤	正
p. 308 表 6-6 イヌの主な感染症 「コロナウイルス性腸炎」の「観察ポイント・症状」の欄 (記述内容の適正化)	「 <u>鱗屑、発赤・発疹、円形脱毛</u> 」	「 <u>下痢、嘔吐</u> 」
p. 308 表 6-6 イヌの主な感染症 「イヌ糸状虫症」の「観察ポイント・症状」の欄 (記述内容の適正化)	「 <u>幼犬：嘔吐、下痢、元気消失、食欲低下</u> <u>成犬：ほぼ無症状</u> 」	「 <u>発咳、元気消失、呼吸困難、食欲低下、腹部膨満（腹水貯留）、血尿</u> 」
p. 309 1.、③、下から 2～1 行目 (用語の適正化)	「 <u>～妊娠 40 日頃から～</u> 」	「 <u>～妊娠 40 日頃から～</u> 」
p. 357 右欄、表 9-14 [吸入麻酔]の用量及び投与経路の欄 (編集ミス)	「 <u>10～30</u> 」	(空欄)
p. 319 表 7-7 ネコの主な感染症 ネコカリシウイルス感染症の病原体名 (スペルミス)	「Feline <u>calcivirus</u> 」	「Feline <u>calicivirus</u> 」
p. 319 表 7-7 ネコの主な感染症 ネコ白血病の病原体名 (スペルミス)	「Feline <u>leulemia virus</u> 」	「Feline <u>leukemia virus</u> 」
p. 319 表 7-7 ネコの主な感染症 猫条虫の病原体名 (スペルミス)	「Taenia <u>taeniaeormis</u> 」	「Taenia <u>taeniaeformis</u> 」
p. 319 表 7-7 ネコの主な感染症 瓜実条虫の病原体名 (スペルミス)	「 <u>Dipyliduum caninum</u> 」	「 <u>Dipylidium caninum</u> 」

(次頁に続く)

訂正・追加箇所	誤	正
p. 321 (2) 静脈内投与の項 1行目 (誤字訂正)	「 <u>撓側皮静脈</u> 」	「 <u>橈側皮静脈</u> 」
p. 324 ① 「はじめに」の項 上から2行目 (一般的な学名に修正)	「イノシシ種 (<i>S. scrofa</i> <u>あるいは</u> <i>S. vittatus</i>) に属し、～」	「イノシシ種 (<i>S. scrofa</i>) に属し、～」
p. 324 右欄 「生物学的分類」の項 上から4～5行目 (一般的な学名に修正)	「イノシシ種 : <i>scrofa</i> (<u>ヨーロッパ種</u>)、 <i>vittatus</i> (<u>アジア種</u>)」	「イノシシ種 : <i>scrofa</i> 」
p. 326 右欄 「歯式」の項 (乳歯の歯式の訂正)	乳歯 : i1/1, c1/1, p0/0, m0/1= <u>10</u> 永久歯 : I3/3, C1/1, P4/4, M3/3=44	乳歯 : i3/3, c1/1, p3/3=28 永久歯 : I3/3, C1/1, P4/4, M3/3=44
p. 327 ⑤飼育管理 1. 関連法規 (1)家畜伝染病予防法 上から5行目 (誤記訂正)	「～ <u>家畜衛生保健所</u> が～」	「～ <u>家畜保健衛生所</u> が～」
p. 341 右欄 「逸走防止と逸走時の対応」の項 6行目	「～、扉を開ける <u>入室</u> する。」	「～、扉を開けて <u>入室</u> する。」

202508